

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

63

紅葉に彩られた晩秋の森はすがすがしく、どこまでも青い空が広がっていました。二〇〇八年十一月十三日、京都市の北にある花背峠から鞍馬山(五三三)へ友人と尾根伝いに歩き、森にお

いや音、色、風、土の感触、沢のせせらぎを楽しんだのです。パナソニックを二〇〇六年に定年退職したのを機に、京都近郊の里山歩きを月に二回から三回行っており、そのたびに自然界の表情、自然の営みに出会うのです。

「歩く速さ」「目の高さ」で捉えることで、あらためて自分が自然界の一員であることに気づかせてくれます。

木々の葉の色や、葉と葉がすれ合う音、森をわたる風、足に伝わる土の感触のすべてが調和し、私をすっぽりと包み込み、心を落ち着かせゆ

ったりした気分させるのです。森の中をゆっくりと歩くことで、これまでの歩みを振り返らせ、これらの歩みに力を与えてくれます。

京都には羨ましがられるほどに名所、旧跡、伝統行事がありますが、いつでも行ける、いつでも見られる」という思いから、ついつい足が遠

のき、灯台もと暗しです。それだけに、最近はず社仏閣の四季折々の景観、祇園祭や大文字の送り火などの伝統行事などをテレビや新聞、インターネットで意識して捉えるようにしています。

「道の日」の記念行事への参加要請を快諾して臨んだヴァイオリン演奏。残された命の時間と向き合い、静かな旋律の中に澄雄さんの歩んできた道が「最後の演奏」に

は「森の音楽会」紺野澄雄さんを偲ぶ」です。

浄土真宗ではこの地を親鸞誕生の地と定めています。実家に帰るたびに私の習わしになっているのは、法界寺のまわりを第で掃くことです。人間

と通れるほどの道幅の道を挟んで法界寺があります。この寺の境内には「親鸞聖人御誕生地」と刻した石碑があり、親鸞は日野のこの地で生まれたと伝えられています。

よく生き愉しくありたいと願い、他者とのかわりの中から自分を見出しながら日々の生活をしていきますが、私が心がけていることは「そ(掃除)わ(笑い)か(感謝)」です。

鉢の中の小さな花々に水をやり、花を摘み、庭の木々の枝振りを眺め剪定をするとき、花々や木々と共に生きていることに気づかれます。

よく生き愉しくありたいと願い、他者とのかわりの中から自分を見出しながら日々の生活をしていきますが、私が心がけていることは「そ(掃除)わ(笑い)か(感謝)」です。私は、今生かされてい

「そ(掃除)わ(笑い)か(感謝)」

京都府宇治市 沢井民雄

地域の歴史や文化を知り、認識を深めることは単に地域を知ることにとどまらず、そこに営まれてきた人々の暮らしを顧みること、今の自分を

投影していたように思うのです。

情景の一つひとつが思い浮かび、涙があふれ出るのを禁じ得ません。

私はホンシユウツカ、ニホンザル、ツキノワグマが棲息し、ツツジやシヤクナゲが群生する山、人々から愛され人々を魅了する山、五葉山。そして紺野澄雄さんを育んできた風土に思いを馳せています。

「五葉山の魅力」リレーエッセイにも、お一人おひとりの人生観や生き様が映し出されています。

私は京都駅の南十キロほどのところにある日野の里で生まれ、育ちました。大型バス一台がやっ

は生かされている存在であることからの感謝の念が、そうさせているのかも知れません。

私は京都駅の南十キロほどのところにある日野の里で生まれ、育ちました。大型バス一台がやっ

は生かされている存在であることからの感謝の念が、そうさせているのかも知れません。

「五葉山の魅力」リレーエッセイにも、お一人おひとりの人生観や生き様が映し出されています。

私は京都駅の南十キロほどのところにある日野の里で生まれ、育ちました。大型バス一台がやっ

は生かされている存在であることからの感謝の念が、そうさせているのかも知れません。

リレーエッセイ



牛若丸伝説の残る鞍馬寺の山門前で。(右が筆者、2008年11月13日)

2008